

昭和八年十二月三十日印刷納本昭和九年一月一日發行（但シ本月）
每月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



編輯人 須田圭二
發行所 野上千鶴子
印刷所 野上千鶴子
社址 野上千鶴子
電話 野上千鶴子

第七回代議員會に於ける針塚會長の挨拶

本日此處に代議員會を開催するに當り諸君には夫々各地支部を代表し遠路遙々御出掛け下さつた事を同窓會長として茲に感謝いたします。惟ふに現下の蠶絲業は最も困難の

状態にあるところから考へて夫々重職にある諸君には多端繁忙の事と思ひます、或は縣廳に居る者は縣の方針に従つて多忙であり或は實業方面に居る者は之の難關突破に日夜寸暇無き迄に忙しい事と思ひますが夫にも拘らず遠方からわざわざ來られた事は母校愛の發露と同時に同窓會に對する熱ゆるが如き熱情の然らしむる處と深く欣喜に耐えませぬ。恐らく現在の經濟状態に於て蠶絲業の困難なる事は想像に余りあることと諸君は夫々その衝に當りこの荒波を乗り切る事に熟慮審策しておられる事と思ひます。併しながら廣くみればこの荒波は獨り蠶絲業のみならず、あらゆる産業あらゆる地方の隅々迄浸潤してお

る故蠶絲業のみ悲觀する要なく、落膽せず夫々此の荒波を乗り切る策を樹立する必要があると、此の席に於ていさゝか私見を述べて參考に供したいと思ひます。夫は蠶絲業が新しく擡頭したレイヨンの爲に甚しく壓迫を感じて居り或る者は之の爲に斯業は再び立つ事不可能であると見る者もあります。私は思ふ蠶絲業は、なる程困難であるが併しながら其の將來がどうなるかと云ふと斯業は何處迄も永久に存続するもの考へるのであります。其は第一に經濟的に全世界が不況の場合に安くて間に合ふもので間に合せる、即ちレイヨンを以て間に合せるが景氣が回復すれば品質の優れた生絲を使ふのは當然の事と思ひます。第二はレイヨンは品質に於て天網の敵ではない、レイヨンは大柴向の物であり種々の纖維と混織して廣い範圍に用ひられてゐます。今日では生絲はレイヨンと混織してその用途を

増し生絲を生かしてゆくべきであり、第三には、又レイヨンが發達して生絲と略均しき物が出來るとすれば生絲はどうしても高いものであつてはなりません、即生絲の値段はレイヨンに依つて牽制されることは免れません、所が餘り安過ぎれば養蠶が出來ないことになる此の場合でも問題の製絲業は依然として成立すると思ふ、何故ならば内地に於て養蠶が出來なくとも朝鮮、滿洲に於ては行はれるからであります、現在朝鮮では十五掛で採算がとれますが二十掛にもなれば鮮滿の養蠶は勃興すると思ひます、そうしたならば内地の製絲業は少くとも現状は確實であり益々發達すると思ひます。而して内地の養蠶業も今後益々發達し行くものと思ふ若し減退した時が來たときは纖維業就中絹絲による農村工業化が行はれる、ときであるから心配はない。今や製絲業は大革新の時機に直面して居ります、從來生絲のみを供給してゐた、我邦はメリヤス及織物として海外に廣く販路を求めるとき時機に當面してゐます、十四、十五年前迄は紡績では絲のみを造つてゐたのが現在では織物としてどんぐり輸出してゐます、恰も此の傾向が製絲業に向つて居るものと考へられます。現に關西地方の某大會社では自己所有數千釜の製絲場より産する生絲の大部分を織成して海外に盛に輸出して、而かも供給が追はるゝ位であるとのことである。今や製絲業は斯の如き方面に進まなければならぬと思ひます、蠶絲業をして一步進んだ工業的事業に目今の境遇を利用して徐

滿洲雜信

滿鐵改組問題

湯川秀夫

十月下旬突如滿鐵改組案が關東軍沼田中佐談として滿洲の新聞に發表されその後各方面にセンセーションを起して居る。之は恐らく本年掉尾のビックニュースであり亦一九三四年初頭のビックテーマであらうと豫想されるのでその渦中の一分子として概要を中繼放送する。

と一般に唱えられて居り改組は單に時間の問題と目されて居た。 (二) 所謂改組案 關東軍特務部案として沼田中佐の發表の内容を要約すれば 一、滿鐵現在の業務を獨立せしめ滿鐵はホールディング、カムパニー(持株會社)となり一切の關係會社を統轄する。 二、附屬地行政權は滿洲國に漸次返還する 三、全滿産業指導の最高機關としての關東軍が産業統制の監督權を持つ

に轉換することが最も大切と思ふます、第三には、又レイヨンが發達して生絲と略均しき物が出來るとすれば生絲はどうしても高いものであつてはなりません、即生絲の値段はレイヨンに依つて牽制されることは免れません、所が餘り安過ぎれば養蠶が出來ないことになる此の場合でも問題の製絲業は依然として成立すると思ふ、何故ならば内地に於て養蠶が出來なくとも朝鮮、滿洲に於ては行はれるからであります、現在朝鮮では十五掛で採算がとれますが二十掛にもなれば鮮滿の養蠶は勃興すると思ひます、そうしたならば内地の製絲業は少くとも現状は確實であり益々發達すると思ひます。而して内地の養蠶業も今後益々發達し行くものと思ふ若し減退した時が來たときは纖維業就中絹絲による農村工業化が行はれる、ときであるから心配はない。今や製絲業は大革新の時機に直面して居ります、從來生絲のみを供給してゐた、我邦はメリヤス及織物として海外に廣く販路を求めるとき時機に當面してゐます、十四、十五年前迄は紡績では絲のみを造つてゐたのが現在では織物としてどんぐり輸出してゐます、恰も此の傾向が製絲業に向つて居るものと考へられます。現に關西地方の某大會社では自己所有數千釜の製絲場より産する生絲の大部分を織成して海外に盛に輸出して、而かも供給が追はるゝ位であるとのことである。今や製絲業は斯の如き方面に進まなければならぬと思ひます、蠶絲業をして一步進んだ工業的事業に目今の境遇を利用して徐

一、改組の必然性 從來滿鐵は日本國家資本主義の權益の代表機關として滿洲に臨で居り滿鐵で關係して居ない業務は「女郎屋」丈であると謂はれる位全面的各種經濟行爲と地方行政を行つて居た。事實東北政權の排日の空氣の中に日本の權益を維持して行くには最も理想的な組織であり且つ華々しい成果を擧げて居るが滿洲國建設と共に情勢は急變し日滿兩國は水魚の如き緊密なる關係となり地方行政の如きも滿洲國に移管すべきが當然となり亦滿鐵は現在でも種々の業務の外八十餘の傍系會社を持つて居る上に十月の本誌に書いた様に急に各種の企業會社が滿鐵關係の下に續々設立されつゝあり内容は益々大複雑となり現在の機構では最早駄目であり

(鷹野記)

一日) 一面資本主義の修正とも見做される(大連新聞十月廿日夕刊)のであつて之は現下の客觀的情勢として當然の歸結であらう。然し乍ら:

三、滿鐵側の態度

之の案に對し滿鐵首腦部は正面より反對する何物も持たないが持株會社が軍の意圖する様なものでなく、可及的に之を強力なものとして今まで以上に子會社に對する支配權を握り全滿經濟に對する實踐的支配者たらしめ度い考でないかと思はれる(大朝十一月二十一日)尙滿鐵三萬の邦人社員を以て組織せる社員會は遂に沈黙を破り評議員會に於て次の如き宣言を可決發表し之の主旨に向つて邁進する事を申合せた。

宣言

一、滿鐵は 明治大帝の御遺産にして國民の血肉の結晶なり國策遂行の使命を帯びて茲に廿七年今や東亞の危機に際し其責務愈々重大を加へ國民の期待更に此に繋る我等挺身事に當らざるべからず

二、滿洲の建設は大業なり滿鐵は滿洲開發の根幹なり之が改變は宜しく白日の下國民と共に之を議すべし濫りに斧鉞を弄して大事を誤る如き我等斷じて之を採らざる

右滿鐵三萬社員の名に於て宣言す

昭和八年十月二十八日

滿鐵社員會

蓋し三十年間滿洲開發の根幹をなし燦然たる業績を擧げた滿鐵は天下の公器、その改革は國家百年の經濟大策である。而して滿鐵社員の經驗

開發の大事業に百年の悔を遺さぬ様善處せねばならぬ。一部の計畫のみによつて斷行さるべきものでないと言ふのがその主旨である。

卷頭言

滿鐵改組に關する我等の宣言は天下に反響した。社員會が團體行動を以て軍の計畫を阻止せんとするは怪しからぬ。何れでもそんなことを荒木陸相が言つたと新聞は報じた。甚しき誤解である。陸相ともあらう者がまさかそんなことを云ひはすまいと思ふ。併し人間往々にして感情の支配を免れ得ず、善言動もすれば自尊心を傷ける。虫の居所次第では譯もなく痛癢が起る。されば我等片言雙句をつかまへて攻撃するの無理解を慎しむ。此に其言を引くはお互に這んな誤解を避け、できるだけ感情的言動を慎しみたいと思ふ一念からである。

軍部が怒つてゐるとは巷間の風説である。社員會幹部は當分新京に行くな、夜なにか出るな、危いぞと心配して呉れた親切者も既に幾人かある。併し危いぞなんか考へること自體、規律ある皇軍への侮辱、眞に申譯ないことと思ふが、そんな馬鹿げた不安をもつ者が一人でもあるといふ一事は確に充分に反省の資料である。我等が改組問題に就て口を開くや皇軍に反抗する者だの、赤化社員だの、直ちにひつくべしだのといふ噂が、忽ち四方から耳に入る。先づそんな風だ餘りにも感情的になり過ぎてゐる。この際一番冷静になつて、お互に正しく見直し正しく解し正しく言ふことに努めなければいけない。滿鐵改組の論議は斷じて熊公八公の喧嘩ではないのだから。

我等は徒らに言を好む者ではない。自己の所信を國民の前に披瀝する義務を感じるが故に敢て言ふ。事國家と國民とに關するが故に敢て言ふ。國民と共に議れと云ひ慎重以て決せよといふに何の不思議があらうか。其の問誤解のあることを不可解である。怒られるこそ迷惑である。我等滿鐵社員は私利の爲に言はぬ。不純な感情に驅られては言はぬ。疑問ある人々は我評議員會議事録を讀んで我等宣言の眞意を確認せられんことを望む。

關東軍當局は滿鐵との了解に基いてやつてゐるのだと辯明する。最近は數字的にも具体案が一致したと發表される。而かも滿鐵當局は之を肯定してゐない。反對があつても押切る、緊急勅令で片付けると放送される。斯くて人心は不安である。斯る申譯や威し文の類は今後お互に慣まねばならぬ。民意を無視して強行するといふ考が萬一にも存在するなら、それは光輝ある關東軍の爲めに遺憾である。何となれば公明正大、國民と共に進むところ、皇軍の面目と威力とがあるからである。

我等の宣言が天下の反響を呼んだのは、至誠の致す所だと信じてゐる。どんなに刺引して考へても一片の理が我等にあるからだと思ふ。理は無下に壓し潰さるべきではない、我等は今後も必要に應じて所信を發表するであらう。異議があるなら論じ合はう、納得が行く迄語り合はう、我等が要望するのはその態度だ。虚心淡懐、枝葉末節の行がかりを捨て、腹を合せ合はう、その襟懷が望ましい。滿鐵改組の結果がどこに落付くかは知らぬ。國民之を議し有司之を決す、我等はそれだけで満足するものである。自案自説が通らねば面目が潰れるといった風な、無用を通り越して滑稽な考を我等はもたぬ。(加藤)

と智識と奉公の精神とは一朝に創造せらるべき性質のものに非ずかゝる劃期的改組の大問題に關しては社員も亦發言權あり依て以て今後の滿洲

四、滿洲よ何處へ行く。デマは亂れ飛ぶ。端的に言へば改組は必然的問題であるが特務部案の根本精神は統制經濟と權力經濟にあ

る現行資本主義經濟の修正にある。來るべき一九三六年の危機に對する準備の一つの現れでもある。而して滿鐵側の意圖はかかる。急速的な經濟機構の轉換は不利である。それでは必ず資本は逃避する今後滿洲開發に必要と謂はるゝ二十億の資本の吸收など到底困難であると謂ふにある。要之改組問題にからむ思想的對立はある意味に於て今日全日本の思想的分野を二分する程の深大なる對立である。(大朝)茲に之の改組問題の重大性がある。而して今やデマは此の問題を繞つて亂れ飛ぶの有様である

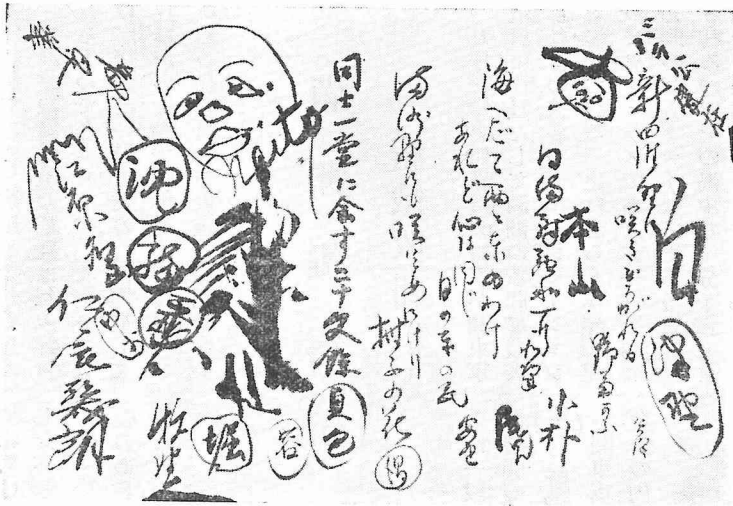
事は次の社員會機關誌「協和」の十一月十五日號の卷頭言を見ても推察が出来る。兎に角事は重大問題である。

虚心淡懐、感情や意地に走らず問題に善處せむ事を祈つてやまない。(一一一九誌)

日鮮滿融合同窓會

(1) 十月十八日から一週恒例の朝鮮蠶絲會主催の高等蠶業講習會が花のお江戸は京城で開催。聴衆無慮五百名内鮮滿各權威者を招聘しての講習會であり伸びんとする朝鮮蠶絲業の前途に一縷の光明を與へて呉れた。

(2) 講習會講師として滿洲より湯川氏朝鮮より尾見氏の各先輩を一度に御二人をお迎へした事は同窓生として大なる誇りでありまた内地からは龜山製絲の白澤氏朝鮮蠶絲業御視察に御渡鮮あり鮮内よりは各道から十數名の同窓生の聽講御來城あり尙水原蠶絲部には朝鮮蠶絲業界の大恩人宮原忠正先生の銅像除幕の式がありあれや此れやで日鮮滿融合同窓會が生れた。



(3) 會場其他一切の事に就ては地元京畿道廳農務課の沈興燮氏に色々無理な條件を附して御願ひしたら何時もながら萬事OK。總てが計畫通りスラ〜と運び非常に愉快であり此の御努力に對し參集者全部が感謝してゐる。特に會場選定は滿點、松の葉綠濃き南山の麓は京



會曲千海東

城一流の料亭其の名はさくらぎ……

(4)日時及場所 十月廿二日於咲良喜京城に於ての集りは何時も喜久家か松金と云つても決して二流ではないが時節柄安値でしかも量の豊富な場所と大相場がきまつてゐるんだが今度だけは各道のヤンパン(偉い方々)が全部御來城なので特に一流の場所を選定する事にした。

(5)参集者御芳名

- | | |
|--------|--------|
| 湯川 秀夫氏 | 清水達太郎氏 |
| 矢澤茂登一氏 | 北澤 茂氏 |
| 小笠原安重氏 | 白澤 幹氏 |
| 尾見 裕八氏 | 貞包 新氏 |
| 荻野 轍間氏 | 中村 由枝氏 |
| 津野 善衛氏 | 金 客 泰氏 |
| 沈興 變氏 | 白 健 濟氏 |
| 金炳 龍氏 | 朴 均 宅氏 |
| 柳原 敏男氏 | 仁尾幾朗氏 |
| 都辰 華氏 | |
- 製絲科
堀 忠太郎氏 本山 正氏美

牧野 春雄氏 内藤 次郎氏

養蠶科十九名製絲科四名紡績科 ナシ計二十三名

(6)宴會の開始は六時半……

山は北漢流れば漢江 ヨイトナ 街にや自慢の南大門 からむ葛さへ五百年 とか云ふ京城小唄に初まり終了は十時半雨上りの南山またひとしほの風情を添ふ。

(7)正味宴會時間は四時間ぶつとほしと云ふとても長い宴會。

其の筈だ此の度の座に限り内鮮美女ありその酒間幹旋よろしきを得たるは勿論尙各ヤンパン氏よりの夫々多分の御寄贈物があり従つて案外綺の財布が重く幹旋者の氣持が急に大きくなり會費超過の心配は絶對になかつた爲。

(8)宴會なかばに餘り参集者が多數だつたので急に記念撮影をとの相談が纏る。御覽の通りのものが出来た。手を握つてゐる不謹慎者にいたつては罰金ものである。更に頭

の白くなるのを苦にする人、髪の毛の薄くなるのを苦にする人等々世は様々。然し其の年になり白くなりまた薄くなる人等は其れも年のせいとして諦めもつころが筆者等の様な未だ此れからと云ふ紅顔の美青年は絶体諦めきれないわい。

(9)老青年組は腰が重く壯年組は腰が軽い。記念撮影後の様子を鳴物入りで御照合せば一段と興味が薄くんだが何時も云ふ様に筆者は至つて其の方は不得手で充分當夜の模様を描寫し得ない事を遺憾に思ふ。が當夜の呼物はなんと云つても老年組に多い。

A、黄海道Y氏大邸のK氏的美妓相手のステツプ
B、京城清凉里はO氏の桑名の殿様及赤垣源藏

何れも堂に入り玄人既足とゴザイ……

(10)老いも若きもみんな學生時代の氣持になり美妓相手の痛飲。此れも

こんな會合なればこそだ。最後に母校に感謝しつゝ萬歳を唱ひ散會雨上りの本町通りをテクシーで各自思ひくの宿舎に表面上は歸られた様だつたが其の後の脱線状況は第二巻とし第一巻以上を以て終り無事歸られし事としておく。

(八、一一、二〇、生N)

武藏野から

碓氷 茂

この間引つ越しをした。どうせ蝸牛のやうな引つ越しには相違ないが、サテ引つ越すとすると却々面倒だ。第一、移るべき家を探して來なくてはならぬ。これが大變だ。足を棒のやうにして歩いて、氣に入つたのを探し當てる迄は大變だ。

いくら探しても思ふやうなに出逢はぬと、終ひには厭になつて來てどんな家でもいゝから移つて終ひ度い、と言ふ氣になる。

いゝ貸家がある、と聞いて、聞いたのみでは直ぐにも引つ越して行き度いやうに思はれても、イザ行つて見ると、大抵はウンザリしてさう。

周囲の工合が悪いとか、庭が狭過ぎるとか、餘り大通りへ面してゐ過ぎるとか、日當りが悪いとか、家主が近所過ぎていけないとかよつぽど面倒なものだ。

さうした面倒な經過の後、僕は漸く引つ越しをした。所は武藏野、武藏野鐵道の沿線である。このあたりは東京といつても遙かに田舎なので、家の近くには未だ畑や森や、舊

式の農家やが点在してゐる。そして畑の中に、ここかしこ家が置かれてゐる。夜になると、近くに家の少ない關係上、風の鳴き聲が殊更高い。近くの森が風で鳴いてゐるのが聞かれる。

移つた家は庭が廣い。家の者が「葱でも植ゑたらどうか」といつてゐる。ホソに一坪位なら葱が充分育ちさうだ。植木など植ゑると第一金がかかつてやり切れぬ。それもいゝとして、僕のやうなま草な男には植木をいぢる勇氣がない。家の者の話では僕は、横のものを縦にもしないといふ評判だ。その位だから、勿論僕から進んで葱を植ゑたりするやうなことは決してしないにきまつてゐる。

同じ東京の郊外でも、ところによつて氣分が大變違ふ。板橋や王子あたりは、何となく氣がソワソワして落ちつきがない。そして何となく氣忙しい。今度移つた武藏野沿線は、板橋に比較すると遙かに落ちつきがある。空の色まで、吹いて來る風に迄落ちつきがあるやうだ。

僕は餘り一ヶ所に長くゐるといふことは好きではない。轉々と移り變つては住んで見たい。殊に都會などではさうだ。静かな所でないと思つてゐても、一ケ年はおろか二三ケ月も経てば直ぐ家がグチャグチャ出來てさうだ。こいつは閉口だ。だからこそ引つ越しがしたくなるのだ。在京生活をするやうになつて三三ケ年、その間家をかへること三回、従つて一ケ年に一度づつ引越しをした勘定にな

武藏野には、ところどころに林がある。雑木林がある。それが、殆んど東京といふ大渦巻の近くにまで擴つてゐる。僕は最近暇があると雑木林を尋ねて見る。ドンダリが落ちてゐないかと思つたり、或は茸でも生えてはゐないだらうかと思つたりして、林の中の草を分ける。さうして時々頭を擡げては林の中から林の内部分構造をのぞいて見る。

朝になると、林と林の間の小徑を分けて出て来る人がある。或は林の中から出て来る人がある。これらの人々は何れも僕自身のやうに、武藏野鐵道によつて池袋に送られ、そして渦巻の中へ消えて行く人達である。

その逆に夕方になると、今頃では夕陽が沈んで西の空を赭く彩る頃であるか、池袋の武藏野鐵道で鈴成りに乗つかつてゐる人々が、何れもこの鐵道の各驛で降されて、バラバラになつて林の中へ消えて行くのである。勿論僕もさうした中の一人である。

この平和な武藏野も、さう平和ばかりは續きさうもない。つい最近の話だ。一丁程離れた家へ泥棒が遣入つた。泥棒といつても勿論「空巢」だ。着物類を大變持つて行かれたさうだ。それから二日程たつてから、今度は直ぐその隣りの家が「空巢」にやられて了つた。これも着物類を澤山持つて行かれたといふ。頗る物騒だ。やがて禍が僕の處へ

及ばないとは限らぬ。で、決して家を空けぬ、といふ約束が最近僕の一家の間で出来上つた。實をいふと家を明けぬといふことも出来さうで出来るものではあるまいよ。

昨日お巡さんが戸籍調にやつて来て、僕の家は「空巢ねらひ」にやられないと保證して呉れたさうだ。といふのは一番端で、しかも二方面が道に面してゐる「空巢」君がやり得

非常に暖かい周囲の畑の麥がスクスクと黒土の上へ這ひ出してゐる。黒い土の中から緑の顔をまっ直ぐに伸してゐる。畑の後ろは林だ。櫟林だ。武藏野を飾る雑木林だ。その林がいま西陽を受けて暖かさうである。見てゐると櫟の葉がハラハラ散つてゐる。如何にも暖かさうである。今日は武藏野の小春日和である。(一九三二一一一九)

遺憾に存候も亦天命致し方無之生前御高配を忝し候御禮を兼ね御挨拶申上度如斯御座候 敬具
昭和八年十二月十四日
東京市大森區池上洗足三一二
父 八田信太郎
千曲會員御中

NEWS 放送局
色々の都合で十一月十二月のニュースを

入學案内

上田蠶絲專門學校

- 募集人員 養蠶科・製絲科・絹絲紡績科(來年度より絹紡績科にかはる豫定) 通計約百名
- 出願期日 試驗檢定 三月十三日迄 入學案内書入用者ハ郵券無試驗檢定 二月二十日迄 二錢封入申込次第送附ス
- 試驗科目 數學(代數・平面幾何) 英語(英文和譯)
- 試驗期日 三月二十日(午前學科・午後體格檢査 口頭試問)
- 試驗場所 上田一本校・東京一文理科大學・名古屋一愛知縣廳岡崎一醫科大學・福岡一九州帝大農學部

市長野縣上田市

故八田直次郎氏御 嚴父よりの謝狀

拜啓直次郎生中は非常なる御厄介相受け難有奉存候 殊に此度死亡に際し御鄭重なる御弔詞を頂き謹而御禮申上候 同人儀本年六月病體の犯す處と相成遂に帝國蠶絲業の爲め並に諸先生方への御報恩もなし不得逝去致し候事

一括してアナウンスする事にした。甘藷業術展開 十一月十八日から二十五日迄吉例により本校の蠶室で第十一回の甘茶會が開かれた。校長先生、井上先生、石倉先生等をはじめ多数職員と、學生諸君の熱心なる御盡力により出品點數二〇〇に近い盛會さであつた。校外出品者前橋の都丸さんなどは頗々上田迄出て來られる熱心さであつた。恰度二十三日の代議員會に遙か遠方から來駕せられた代議員諸兄の旅情をいくらかでもお慰めする事が出来たとすれば幸である。

熊谷恒次君の結婚 暫く獨身者の時(?)を擅にしてゐた蠶業試驗場長上田支場技手熊谷君(蠶十六)も去る十一月十九日東京摩洗馬村の自宅で日出度く華燭の典を舉げられた。花嫁(靜江さん)は池田町の。才色兼備の麗人と聞く。だが記者は未だ拜問せつけられないのが残念。もうボツ……と思つてゐる。

學生の軍事教練檢査 十一月二十七日、宇都宮師團の山田少將閣下は本校軍事教練查閱の爲來校された。國家非常時の折柄として相當に細かい注意もあり雜質問も出され嚴格な查閱の様に思はれた。然し教練、演習に對する評語も上々。又職員も多數後援した事等に對し何時もながら流石に上田蠶絲專門學校の軍事教育は立派なものであると喜んで歸られたさうである教官山田中佐の日頃の御奮闘が酬ひられたと見るべきであらう。

倉澤美徳氏教授に榮進さる 十一月三十日倉澤美徳氏は日出度く母校教授に榮進された。母校の爲將又千曲會の爲此の上もない慶事であらねばならぬ。尙助教授であられた以前の御不自由さをお察しすると同時に今後益々快腕を振はれん事を祈る。

上田蠶業試驗場長更迭 長野縣蠶業試驗場上田支場長矢澤鐵治氏は此度茨城縣第一蠶業試驗場長に榮轉せられ後任として蠶業試驗場本支場技師瀧島政術氏(東蠶田身)が今月初めから就任せられた。次席の技師小林(繁)さんは矢張り松本に居られた人であるから新場長も色々御都合が良い事であらう。尙矢澤氏は上田には一年十ヶ月在勤せられた。

上田蠶業業議會 上田商工會議所では養蠶・製絲、蠶種製造家蠶絲業方面の學者經驗者銀行家等權威者三十余名の蠶絲業對策座談會を去る十二月十日午後一時から六時迄上田市役所樓上で開催した。出席者瀧島は左の如くで本校でも五人出席された。

出席者、井上博士、早川博士、林教授

野口助教、平澤勝氏(以上本校)、瀧島上田蠶業試験場長、齋藤蠶業取締支所長、猪坂生絲の國社長、丸山上田商工會議所議員、笠原商工會議所副會頭(製絲家)、藤澤染色講習所長、小宮山製絲場長、鈴木八二銀行上田支店長、江口安田上田支店長、太田氏(八二銀行本店)瀧澤(一)信濃商社社長市村上田商工會議所理事、田中氏(蠶種家)岡田上田商工會議所理事、外二〇名。本校で養蠶關係で衛生教授出席する管の所生憎風邪の氣味で缺席されたのは遺憾であつた。座談會だけにその場で結論を得る事は勿論出来ない。組上に載せられた問題主なるものを挙げるならば

羊毛代用の纖維とし、需要を第一に開拓すべしといふ説の眞價を宣傳し織物として賣出せといふ説、生産費で争へば當然人絹に敵はぬといふもの。群小製絲家の抹殺論を出すもの、反對に、大資本工場を否定するもの根本的に絲價の浮動性を少くすべしといふもの、生糸は矢張生絲としてその特徴(細くて強伸力に富み、蟲害にからぬ等)を發揮すべしといふもの。織物を考へて生絲を考へるべしといふもの。絹業自主策の確立を叫ぶもの等々である。

蠶絲學雜誌第六卷第二號發行
寄稿者各位の御援助により第六卷二號も無事産れた、内容は、報文、調査、資料抄録等である。

照病豫防効果並に一二細菌學的検査に就て.....中澤 喜雄
五、桑葉のアミラーゼに關する試験.....松村 季美
春口 卓郎
調 査
一、桑葉の澱粉價値に榮養比に就て.....須田 圭二
二、蠶繭の變形並に營菌性一考察.....山口 定次郎
資料
蠶兒の吐絲管の構造及大きさに就て抄録 多數
約七〇頁のものである今後共多數御寄稿を乞ふ 以上

在田干曲會忘年會兼養蠶教授祝賀會
十二月十四日公開内富貴で行はれた先づ林理事の開會の辭、蒲生理事長の祝賀の辭並に新理事長としての挨拶、及松村前理事長の挨拶續いて倉澤教授の謝辭等があつた。集まる者六〇名の多きに達し近頃稀にみる快會であつた。
本年度掉尾の談話會は十二月十五日本校第十一號教室で開かれた例により納閉であるので井會とした、午後四時開會、六時頃休會して一同會食し再び開會し九時頃まで熱心に講演され又聴講された、特に今日は次の様に講演者がオールスターといふわけで數十人の盛會であつた
今演題と、講演者を記して見る

一、挨拶.....校長先生
二、生絲の溫度に對する性質に就て.....窪田 潤
三、圓型梳棉機の針布の構造に就て.....香山 清和
四、昭和八年度の蠶絲業を省る.....林 貞三
五、血球の話.....蒲生 俊興
六、本年度ノール賞受賞者モルガンと其の業績.....佐藤 春太郎
七、本年度物理學界ニユウース三、四.....原田 親雄

八、澱粉及纖維素の構造式に就て.....井上 柳梧
付梓蠶絲の利用、製品の陳列.....井上 柳梧
等で僅か數十人の聴衆では勿体ない程有益な會であつたと思ふ。益々本會の發展せん事を祈る。最後に今學期本會幹事林(大)、戸部、須江の三名の御盡力に對し、又終始一貫リリーダとして御世話下さる原田先生に深謝の意を表する次第である。

學生の臨時試験、は十八日から六日間行はれる。春から夏にかけての實習、それから休暇、秋のスポーツ等ですつかり緩められた頭を緊め直す爲に誠に良い機會である。
スキーと菅平
男といはず女といはず勢力のやり場に困り切つてゐる人々に眺え向きの舞踏場菅平の銀盤は漸く最近出来上つた。思ふ存分に亂舞するがよい。母校でも百臺スキーを備へた。山岳部も數十臺のスキーを買込み非常時に備へるだけの健康を得んためにもと意氣込んでゐる。菅平ホテルや山の家はもう豫約済みであらふ。恐らく十二月末から一月十日頃迄は、溢れ出る騒ぎであらふ。幸に菅平には母校のヒュッテが吾々を待つてゐる。田舎都市上田に住むものせめてもの喜びであり誇である。上田からの電車賃、自動車賃は往復六十五錢。ヒュッテの使用料は一泊十五錢(但食費は別)十二月十七日の日曜には養蠶部君は菅平へ出かけた。之がスキーのハンリであらふ。「何うです君出掛けて来る氣にはなれませんか」

十二月四日 福岡縣蠶絲課勤務の八田直次郎氏(絲十三)御逝去に付御遺族及北九州干曲會長(直に)電を發せり
十二月九日 先般提出し置きたる蠶絲學雜誌出版届の件特號納本のみを爲し其

の都度届出の手續省界の件内務大臣より許可せらる
十二月十四日 倉澤美徳氏昇進祝賀會兼忘年會公開富貴に開催す田會員多數參集實に盛會を極めたり

故坂本孝子氏弔
慰金
一、金八圓也 教養養成科第一回卒業生一同
一、金七圓也 製絲部教養養成科第十六回卒業生一同
一、金貳圓也 製絲科教養一同
三好 彌市 富田鐵五郎
鈴木 教吾
金壹圓也
三輪 貞徳 笠原 義人
黒田誠一郎 蒲生 俊興
齊藤 菊雄 松村 季美
川船 卓爾 須田 圭二
大野久次郎 尾藤 省三
窪田 潤 林 貞三
萩原 清治 志田 敬夫
萩野 俊一 富田 乙松
高木 三治 山越 さと
池田みつえ
飯島 六
一、金五拾錢也
宮下 丈夫 大木 定雄
茅野清三郎 應野 誠一
小宮山 糸子
合計 金四拾四圓五拾錢也
遺族贈呈料金四拾四圓五拾錢也
上田蠶絲專門學校干曲會

秋日雜詩
白峰 岡部康之
柳影漸衰殘暑收 客應寂寞入新秋

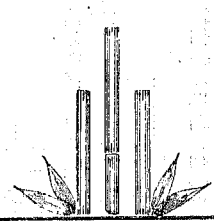
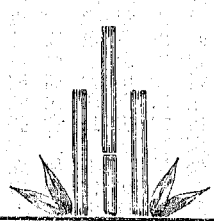
江村雨霽天如洗 數點昏鴉自作愁
獨對青簫坐半宵 憂愁把燭幾回挑
折腰斗米人空老 一想邦家魂欲消
中流何處去來船 漁唱聲長蘆荻邊
一抹江天聯雁字 關々明月半空懸
桑榆尋到路縱橫 矢渡殘霞畫角鳴
誰吊忠誠埋骨跡 疎鐘處處夕陽晴
自註 矢口渡偶成

弔慰金募集廣告
本會々員
大池 彰氏(蠶九)
八田直次郎氏(絲十三)
豫て御病氣の處養生不相叶
大池氏は十一月廿日八田氏
は十二月三日遂に御逝去被
致候間此段本紙上を以て及
御通知候也
追而有志弔慰金は一月末日迄に取
纏め遺族へ贈呈可致候間便宜上振
替口座東京四三三四一番へ夫々大
池氏又は八田氏弔慰金の旨御明記
の上御拂込被下度候
昭和八年十二月十五日
上田蠶絲專門學校
干曲會

弔慰金募集廣告
(再録)
本會々員
大池 彰氏(蠶九)
八田直次郎氏(絲十三)
豫て御病氣の處養生不相叶
大池氏は十一月廿日八田氏
は十二月三日遂に御逝去被
致候間此段本紙上を以て及
御通知候也
追而有志弔慰金は一月末日迄に取
纏め遺族へ贈呈可致候間便宜上振
替口座東京四三三四一番へ夫々大
池氏又は八田氏弔慰金の旨御明記
の上御拂込被下度候
昭和八年十二月十五日
上田蠶絲專門學校
干曲會

正 賀

日一月一年九和昭



| | | | | | | |
|-----------------------------------|--------------------------|---------------------------------------|-----------------------------|---------------------------|--------------------------------|---------------------------|
| 謹賀新年 合資 千葉商店 東京市本郷區菊坂町三七 | 謹賀新年 坂路商店 高崎市赤坂町七六 | 謹賀新年 株式會社 大和三光商會 東京市京橋區京橋三ノ二 | 恭賀新禧 上田市大門町 三徳商會 都筑賢吉 | 謹賀新年 蠶絲科學研究會 長野縣上田市 | 謹賀新年 合資 增澤商店 長野縣諏訪郡岡谷 | 謹賀新年 平山製作所 群馬縣前橋市向町 |
|-----------------------------------|--------------------------|---------------------------------------|-----------------------------|---------------------------|--------------------------------|---------------------------|

謹賀新年
上海四川路三井洋行
渡邊 齊

謹賀新年
長野縣上高井蠶業學校
佐谷戸健次郎
田口富五郎
古越光明
兒玉信尊
金野巖保

編輯室より

明けましてお芽出度うございませす。舊年中は一方ならぬ御厚志に預りました事を深く感謝いたします。尚ほ本年も相變らず御援助御投稿下さる様偏にお願ひ申します。

須田圭二
野口新太郎
金澤 勇
鷹野誠一

住所移動及訂正

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------------|-----------------------------|-------------------------|----------------------------------|-------------------------|------------------------------------|------------------|-----------------|--|---------------------------------------|----------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|------------------------------|---------------------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------------|------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|-------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------|------------------------------|-------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|---------------------------|--------------------------------|-----------------|-----------------|------------------|
| 黒子二郎 舊職發 東京市大森區雪ヶ谷町八九八 | 加々非精 選登十三 長野縣小縣郡泉田村五九 | 玉 福 蠶十七 中華民國南京社會局 | 加藤省三 蠶十九 富山縣蠶業取締所非波支所(非波町) | 小林茂樹 絲一 長野縣小縣郡那賀村 | 矢野部忠吉 絲二 磐城石川組製絲所(福島縣原ノ町)(訂) | 則信忠夫 絲十三 同 | 水野健吉 絲三 同 | 久保田一徳 絲四 大阪府三島郡吹田町山崎三、一七五(勤務先不變) | 古那友一 絲七 鐘淵紡績株式會社鐵原製絲所(朝鮮江原道鐵原邑) | 加藤善一 絲八 神戸市灘區南町二ノ二七八 | 竹内健二 絲十 東京市中野區中野町桃岡四四(住所訂) | 村田借宜 絲十三 昭榮製絲株式會社下諏訪工場(長野縣下諏訪町) | 木藤富士雄 同 原富岡製絲所(群馬縣富岡町) | 山田良人 絲十八 豊中生絲株式會社(大分縣中津市) | 梅村義一 絲十九 岐阜縣武儀郡大矢田村 | 瀧澤幸司 同 長野縣小縣郡塩川村塩川 | 大石唯男 同 長野縣上伊那郡高遠町の場 | 小林進 絲二十 那星製絲株式會社長井工場(山形縣長井町) | 三宅勳 同 歩兵第六十三聯隊第二中隊第三班(松江市) | 篠原林助 同 諏訪中央組合(長野縣諏訪郡湖南村) | 佐久間幸一 紡十 佐賀縣唐津市城内 | 木曾信雄 紡十一 愛知縣毛織物検査所津島支所(津島町) | 中森謙二 同 三重縣南牟婁郡南輪内村古江浦一番屋敷 | 大塚富雄 同 上田市大門町山下方 | 丸山力藏 同 長野市吉田五七三 | 大川猪之助 紡十二 滿洲紡績株式會社(滿洲國遼陽未廣町) | 鈴木力 同 歩兵第六十三聯隊第十一中隊第三班(松江市) | 立木一千 同 松本精練所(松本市清町) | 倉重ウメノ 大正十一 山口縣佐波郡中關町山島 | 大瀧すみ 昭元 上田市松尾町聯聯裏 | 栗山とり 同 鐘淵紡績株式會社結城製絲工場(茨城縣結城町) | 森ふじい 昭二 勝田第一組合製絲所(岡山縣勝田郡植月村) | 八木まつい 昭五 舊姓清水、埼玉縣本庄町宇泉町 | 田中きみ子 昭六 鐘淵紡績株式會社結城製絲工場(茨城縣結城町) | 市川乙女 同 豊橋市東田町東郷津又六方 | 小宮山糸 昭八 磐城石川組製絲所(福島縣原ノ町) | 宮島はる 昭五 同 | 倉島貞子 昭八 同 | 關川艶子 昭元 死亡 |
|------------------------------|-----------------------------|-------------------------|----------------------------------|-------------------------|------------------------------------|------------------|-----------------|--|---------------------------------------|----------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|------------------------------|---------------------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------------|------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|-------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------|------------------------------|-------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|---------------------------|--------------------------------|-----------------|-----------------|------------------|